

平成 28 年度健康実態調査の結果について（概要）

1. 調査の目的

平成 24 年 9 月に「カネミ油症患者に関する施策の総合的な推進に関する法律」が施行され、「カネミ油症患者に関する施策の推進に関する基本的な指針」（厚生労働省・農林水産省告示）に基づき、カネミ油症患者の生活習慣、病状、治療内容等について把握し、カネミ油症に関する調査研究を更に推進することを目的とする。

2. 調査期間

平成 28 年 4 月～6 月末

3. 調査対象及び回答者

各都道府県で把握している 1,605 人（前年度 1,630 人）の調査対象見込者数（平成 28 年 3 月時点）のうち、死亡や所在不明の方、非協力の意向を示された方を除く 1,437 人（前年度 1,443 人）に調査にご協力頂いた。

4. 調査項目

全国油症治療研究班（厚生労働科学研究費補助金による）で、カネミ油症患者の意見を聞きつつ決定した生活習慣、健康状態や悩み、治療状況、これまでにかかったことのある病気・症状などの項目を調査した。

5. 調査結果の活用

調査結果については、アンケートに基づく調査の医学的・科学的解釈の限界に留意しつつ、全国油症治療研究班（厚生労働科学研究費補助金による）において、過去の検診結果等と併せてより詳細な解析を行い、翌年度以降の健康実態調査項目などカネミ油症に関する調査研究に活用される予定である。

6. 調査結果の概要

(1) 性別

・男性 685 人（前年度 687 人）、女性 752 人（前年度 756 人）

(2) 年齢

・平均年齢は 65.0 歳（前年度 64.4 歳）

男性 64.0 歳（前年度 63.1 歳）、女性 66.0 歳（前年度 65.5 歳）

・男性は、「55～59 歳」の方が 17.7%（前年度 17.5%）と最も多く、次いで、「60～64 歳」が 15.2%（前年度 13.7%）、「50～54 歳」が 14.6%（前年度 16.4%）等の順であった。

・女性は、「55～59 歳」の方が 16.5%（前年度 15.7%）と最も多く、次いで、「60～64 歳」が 14.9%（前年度 13.0%）、「50～54 歳」が 14.1%（前年度 14.4%）等の順であった。

(3) 生活習慣について

- ・ 1日の歩行時間についてみると、「90分以上」と回答した方が30.3%（前年度30.1%）と最も多く、次いで、「30分～60分未満」が26.5%（前年度25.3%）、「30分未満」が24.1%（前年度24.7%）等の順であった。
- ・ 運動(スポーツ)頻度についてみると、「ほとんどしていない」と回答した方が46.4%（前年度47.2%）と最も多く、次いで、「週2～4回程度」が19.8%（前年度19.3%）、「週1回程度」が15.0%（前年度13.4%）、「ほぼ毎日」が14.4%（前年度14.8%）等の順であった。
- ・ 飲酒頻度についてみると、男性では「ほぼ毎日飲む」と回答した方が33.0%（前年度31.1%）と最も多く、女性では「飲まない」と回答した方が70.1%（前年度70.5%）と最も多かった。
- ・ 喫煙状況についてみると、「吸わない」と回答した方が男性34.9%（前年度37.8%）、女性85.0%（前年度86.1%）ともに最も多かった。
- ・ 睡眠時間についてみると、「6時間以上7時間未満」と回答した方が31.3%（前年度33.7%）と最も多く、次いで、「5時間以上6時間未満」が26.4%（前年度25.9%）、「7時間以上8時間未満」が17.0%（前年度17.3%）等の順であった。
- ・ 睡眠時間のとれている度合いについてみると、「まあまあとれている」と回答した方が50.2%（前年度47.5%）と多く、次いで、「あまりとれていない」が30.8%（前年度32.9%）、「充分とれている」が15.4%（前年度16.0%）等の順であった。
- ・ 労働時間についてみると、「4時間未満」と回答した方が30.2%（前年度28.8%）と最も多く、次いで「8時間以上9時間未満」が15.4%（前年度13.5%）、「10時間以上」が12.5%（前年度13.0%）等の順であった。
- ・ 常用しているサプリメント・健康食品・漢方薬の有無についてみると、25.1%（前年度26.7%）が「ある」と回答した。

(4) 健康・悩み・ストレスについて

- ・ 日常生活での悩みやストレスについて、「ある」と回答した方は76.7%（前年度76.2%）であった。また、「ある」と回答した1,102人（前年度1,100人）を対象に、悩みやストレスの最も気になる原因（1つ）を質問したところ、「自分の病気や介護」と回答した方が314人（28.5%）（前年度354人（32.2%））と最も多かった。

(5) 介護や日常生活動作の状況について

- ・ 病院や診療所への入院、介護施設への入所状況についてみると、5.6%（前年度5.8%）の方が入院中若しくは入所中であった。
- ・ 要介護認定の状況についてみると、40歳未満の回答者を除いた1,434人（前年度1,439人）、男性683人（前年度684人）、女性751人（前年度755人）のうち、11.9%の170人（前年度163人）、男性50人（前年度46人）、女性120人（前年度117人）の方が要介護認定を受けていた。

・また、要介護認定を受けている方（170人）に現在利用している介護サービス（当てはまるものすべて）を質問したところ、「通所介護（デイサービス）」と回答した方が65人（38.2%）と最も多く、次いで「ホームヘルパーの訪問介護・訪問看護」が50人（29.4%）、「通所リハビリテーション」が22人（12.9%）等の順となっている。一方、「特別養護老人ホームへの入所」が12人（7.1%）、「介護老人保健施設への入所」が7人（4.1%）と、要介護度の高い方が中心に利用するサービスについても、一定数の利用があった。

(6) この1年間の治療状況について

・現在の受診頻度についてみると、「毎月1〜3回程度」が45.9%（前年度44.5%）と最も多く、次いで「数か月に1回程度」が26.9%（前年度25.5%）等の順であった。

・医師の処方により継続して飲んでいる（塗っている）薬があると回答した方は、973人（67.7%）（前年度951人（65.9%））で、男性431人（62.9%）（前年度428人（62.3%））、女性542人（72.1%）（前年度523人（69.2%））であった。

(7) 油症患者受療券（油証券）の使用状況について

・油証券の保有状況についてみると、油証券を持っていると回答した方は890人（61.9%）（前年度904人（62.9%））で、男性410人（59.9%）（前年度418人（60.8%））、女性480人（63.8%）（前年度486人（64.3%））であった。

・926人（64.4%）（前年度928人（64.3%））が、この1年間、油証券を使用せずに受診した経験があり、うち182人（18.7%）（前年度201人（21.7%））が「油証券の使用を希望する医療機関がある」と回答した。

(8) 油症検診について

・油症検診の前年度の受診状況についてみると、受診したと回答した方は、542人（37.7%）（前年度574人（39.8%））であった。また、受診していないと回答した884人（61.5%）（前年度848人（58.8%））を対象に、受診しなかった理由を質問したところ、「仕事などで都合がつかなかったから」と回答した方が316人（35.7%）（前年度305人（36.0%））と最も多かった。

(9) 相談体制について

・油症相談員や都道府県の相談窓口への相談状況についてみると、相談したことがあると回答した方は、214人（14.9%）（前年度230人（15.9%））であった。また、相談したことがないと回答した1,193人（83.0%）（前年度1,178人（81.6%））を対象に、今後利用したい、または利用することが考えられる相談内容を質問したところ、「自分の病気や介護」と回答した方が637人（53.4%）と最も多く、次いで「家族の病気や介護」が284人（23.8%）、「収入・家計・借金等」が125人（10.5%）、「家族又は家族以外との人間関係」が59人（4.9%）の順となっている。

(10) 罹患と治療状況について

今回初めて回答する方（33 人）を対象に、これまでかかったことがある病気等の状況を調査したところ、

- ・これまでかかった悪性腫瘍（がん）については、「大腸がん」2 人（50.0%）が最も多く、その他「肺がん」「乳がん」がそれぞれ 1 人（25.0%）であった。
- ・これまでかかった脳・精神・神経の病気・症状については、医療機関で治療中の中で「頭痛」4 人（12.1%）が最も多く、次いで「頭重」2 人（6.1%）の順であった。医療機関での治療をへて治癒した症状は「頭痛」が 1 人（3.0%）であった。症状はあるが治療していない方は「神経痛」が 4 人（12.1%）、「頭痛」「もの忘れ」がそれぞれ 3 人（9.1%）の順であった。
- ・これまでかかった自律神経系の症状については、医療機関で治療中の中では「不眠」3 人（9.1%）が回答にあがった。症状はあるが治療していない方では「過敏性腸症候群」「多汗症」がそれぞれ 2 人（6.1%）と最も多く、「起立性低血压」「汗が出にくい」「不眠」、「不安神経症」がそれぞれ 1 人（3.0%）と次いで多かった。

過去に回答したことがある方（1,404 人）を対象に、前回の回答以降にかかった病気等の状況を調査したところ、この 1 年間に新たにかかった病気については、「風邪」が 24 人（1.9%）で最も多く、続いて「その他の眼の病気」が 23 人（1.8%）、その後「糖尿病」ほか 3 件がそれぞれ 21 人（1.7%）と多かった。また、これらの方々に現在の治療状況を確認したところ、「医療機関で治療中」と回答のあった方が 282 人（20.1%）と最も多かった。

(11) 自由記載欄について

本調査では、「これまでの症状や病気について、書ききれなかったことや、特に研究してもらいたいこと、要望など」について自由記入欄を設けたところ、265 人（前年度 290 人）から回答があった。

※主な記載内容

- ・自分、家族の健康に関する不安、生活上のストレス等について 188 件（前年度 160 件）
- ・職業（仕事）に関する苦勞について 10 件（前年度 3 件）
- ・経済的な苦勞について 14 件（前年度 13 件）
- ・治療法の研究開発への要望、期待 46 件（前年度 39 件）
- ・病院、医師、検診に関する要望 23 件（前年度 41 件）
- ・行政機関に対する要望 36 件（前年度 38 件）
- ・カネミ倉庫に対する要望 17 件（前年度 4 件）
- ・その他 3 件（前年度 8 件）